

日本ジオパーク全国大会「アポイ岳大会」が開催されました！

10月5～7日、北海道様似町で第9回日本ジオパーク全国大会アポイ岳大会が開催されました。

ジオパーク全国大会は年に1度開催されており、北海道での開催は平成23年の洞爺湖有珠山大会以来2回目です。

今大会では45地域の日本ジオパークのほか、ジオパーク認定を目指している地域から、ガイドや専門員、企業、研究者など約680名が集まり、8つの分科会に分かれて情報交換を行いました。

各分科会の内容は『2018アポイ岳宣言』にまとめられ、「地質資源の保全・活用」や「無形文化財をジオパークの大切な遺産として保全・活用」すること、「地域の教育活動と広く協働・連携」することなどが合意されました。

また、各ジオパークのブースや北海道命名150年記念講演会、子ども対象の体験ワークショップも行われ、ジオパークの魅力や楽しさが紹介されました。



分科会1「ジオパークが担う普段の減災・防災活動って何？」は約70人が参加。2日間のプログラムで、火山噴火・土砂災害・津波などの自然災害に対し、ジオパークが担う役割は何か？を各地の事例をもとに考えました。



体験ワークショップ「有珠山の噴火実験」。参加者に5つの空気入れから1つを選んでもらいます。空気入れを押すと、有珠山模型のどれかが噴火する仕組みです。噴煙にはきな粉を使い、子どもも安全に楽しんでもらうことができました。

洞爺湖有珠山ジオツアーも実施！



大会前の10月4～5日、「減災・防災」分科会と連携して、洞爺湖有珠山ジオパークでもジオツアーを開催しました。九州や四国など、全国のジオパークから19人が参加。散策路や災害遺構以外にも、豊浦町のインディアン水車や伊達市有珠地区をバスで巡り、「火山との共生」や、「保全」「教育」について考えました。洞爺湖有珠火山マイスターが実践する減災教育を、自分の地域でも参考にしたいという意見もありました。



アポイ岳ジオパークはこんなところ

「アポイ」の名前はアイヌ語の「アペ（火）・オイ（多い所）・ヌプリ（山）、大火を焚いた山」を略したものとされています。

アポイ岳は、もともと地球の奥深くにあったマントルが、地表に表れたもの。かんらん岩という特殊な地質の影響で、810℃と低標高でも、たくさんの高山植物とここにしかない固有種が見られるジオパークです。